

Pichari

～ピチャリ～

七飯町歴史館だより

第35号

ななえ古写真物語

VOL. 35

袈裟架けの栗

～失われた栗の木～

写真は昭和50年頃か？

桜町地区



「伝説、むかし、アイヌ族が生息していたころ、或名僧（日持上人か）がここを通り、本樹に袈裟をかけ、経文を唱えしよりこの名あり。神の木と称してこれに触れるものなし、今に及べり（北海道林業会報十三巻第十一号）」

上の抜粋は、七飯町史に記されている文章である。ピチャリ第4号では「生命ある一本栗」として大川地区の一本栗地主神社境内に今も残されている栗の木を紹介しましたが、今回は、それとは別の栗の木を紹介したいと思います。

上の写真に写されている大木は、過去に桜町地区にあった栗の木です。冒頭に引用した理由から「袈裟架けの栗」と呼ばれていました。また、この写真ではわかりませんが、実は、根元には、人がかかんで入ることが出来る大きさの空洞がありました。昭和40年頃ですでに、樹齢600年以上と言われていた事から想像すると、一本栗地主神社の栗と比べても遜色ないほど古く、大きな木だったことが想像出来ます。

残念ながら木が枯れてしまい、倒壊の危険性が高くなったことや有効な保存方法が見出せなかったことなどから、昭和58年、丁寧に読経した後伐採されてしまったので、もう見る事が出来ません。

ところで、この「袈裟架けの栗」には、こんな話もあります。それは、名僧が立ち去った後、この辺りでは、作物がよく獲れるようになり、近くの川からは魚もよく捕れるようになった。人々は喜び、この栗の木を大切にし、子供たちでもこの栗の空洞に、いたずら半分に入ることには無かった。しかし、ある旅人が、夕立に遭い、急いでこの空洞に逃げ込み、雨宿りをしていたところ、旅人のいる栗めがけて、雷が落ち可哀想に旅人は命を落とした・・・。というものである。また、ある乞食が空洞に住みついて、中で火を焚いたところ、火事になって焼け死んだ・・・。という伝説も残っている。

なんとも恐ろしい話だが、実際、この栗の空洞部分は焼けて黒い炭になっている。なぜ、それが判るのかということ、伐採した後、幹の一部を樹木標本として、当館で大切に保管しているからである。

さて、なぜ今回、失われた栗の木の話を持ち出したかということ、先日、白老町から、わざわざ当町にある巨樹・古木を見たいという男性が訪れたのですが、残念ながらこの木だけはお見せできませんでした。そのお詫びを兼ねて、紙面をお借りしたというわけです・・・。



牛乳パックがドロドロに!

上手に出来た!

24日 ふぁみりーでいみゅーじあむで『ハガキをつくろう』と題して、牛乳パックからハガキを作りました。牛乳パックは印刷面をはがしておき、細かくちぎって水と一緒にミキサーに入れます。ボウルに移し替えたなら、のりと水を加えてよく混ぜ、紙すき杵をゆっくりとボウルに入れて、原料をすくいあげました。最後にさらしを敷いた板にはりつけ、乾かします。たくさん出来たハガキを手を、「作ったハガキ、みんなに送ろう～!」と楽しそうに話していました。

30日

ジュニア探検クラブで町民文化祭に参加しました。せんべい・ポップコーン作り、割り箸鉄砲・ペットボトル風車作り、石臼ひき・とうしゃばん体験を各班に分かれて行いました。普段体験する機会がない物ばかりで、じーっと説明を聞く子ども達。体験前に『とうしゃばんで印刷できるしくみは?』などの問題が出され、質問をしてメモを取る姿も見られました。色んな体験が出来て楽しかったね!

せんべいのタネ作り!



お話に夢中!

30-31日

町民文化祭が開催されました。今年も当館が第二会場となり、館内には石臼体験や布ぞうり作り、りんごの試食、レコードコンサートなどが催され、特に歴史館前で行った絵本の読み聞かせは、親子連れや散歩に来ていた保育園児などに大人気でした。

また、今年はせんべい焼き体験に加え、友の会で栽培したとうもろこしを使って、ポップコーンも振舞われました。友の会と郷土史研究会の皆さん、お疲れ様でした。

ペットボトル風車作り

レーキのさび落としをしていただきました!

友の会の皆さんが、歴史館玄関横にある『レーキ』のさび落としをしてくださいました。皆さんのおかげで、本来の赤い色がよみがえりました。お忙しい中、ありがとうございました。



収穫!

よるずの会で栽培している綿です。なかなか弾けず、暖かい場所に移動したら弾けて真っ白な綿が!こんな風に育つんですね。(A)



12月31日～1月5日まで休館いたします。

編集後記 ~tawagoto~

雪がちらつく季節になりました。なんとなく寂しい気分になりがちですが、今年の歴史館は違います。なぜなら、歴史館オープン前に寄贈された資料を再整理すべく、11月から2名の猛者に力を借りているからです。これまで3人で仕事していたので、活気溢れた感に満ちています。

しかし、名も無き資料達が私達の行く手を阻もうと手ぐすね引いていることに、我々はまだ気付いていないだけかもしれない!? (やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~ 第35号

平成22年11月20日 発行
七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp